



いちよう

山形市立第四小学校

校長 村上 ゆかり

<児童数 189名>

〒990-0055

山形市相生町4番37号

TEL 623-6019

FAX 633-9321

つながりの中での育ちを実感した2学期

85日間という長い2学期も今週で終わります。始業式には「わくわくすることを見つけよう」と話し、それぞれの学級や行事の中で、自分たちのわくわくを見つけて、取り組んできました。まだまだコロナが収束せず、予定していたクルーズ班での宿泊活動や、いちよう秋祭り、先週の学習参観など、残念ながら実施できなかったこともあります。音楽や理科など校外における成果発表会、研究会への参加など、新しい学びの機会もありました。そのような中、改めて実感したのは、「人はつながりの中で成長する」ということです。まさしく、本校の伝統である「クルーズ班活動」の原点です。9月に行われたいちよう兄弟体験学習は、1学期に異学年交流が制限されていたこともあり、ようやくクルーズ班での活動を始めたばかりにもかかわらず、6年生を中心に、自然の中で自ら活動をつくり、声を掛け合い、仲を深めることができました。この活動は、日々のクルーズ班清掃にも引き継がれ、「手本となる」「見習う」「推し量る」「憧れる」など、成長につながる思いを引き出しています。また、いちよう音楽会では、アリーナから聞こえてくる高学年の歌声や、管弦楽の響き、全校合唱でしか味わえないハーモニーに寄せた子どもたちの振り返りから、本校が紡いできた音楽の力を実感しています。先週、6年生から「なぜ、クルーズ班活動が生まれたんですか？」という問いを受けました。卒業までの時間で、きずな学年らしい答えを見つけられると信じています。

年末年始休業に向けて、「自分で生活をつくる」ことをめあてに、各学年に応じた指導を行っています。このめあては、私たち教職員も同じです。各ご家庭においても、ぜひどのような冬休みにしたいのかを子どもさんと一緒に考え、支えていただければと思います。ご家族でどうぞよいお正月をお迎えください。



定番「だるまさんが転んだ」だけではなく、「〇〇さんが転んだ」も人気です。

プロジェクト委員会運営による赤い羽根募金でも、低学年を思いやる優しい関わりがみられました。



タイマーを使って、爆弾ゲーム。いろいろな作戦があったようです。

交通指導員さん ありがとうございます。

今月6日（火）に、菅江さん・石山さん・杉沼さんの3名の交通指導員さんをお迎えしプロジェクト委員会が企画・運営を行って、感謝の会を行いました。コロナの感染状況を踏まえ、放送による実施となりましたが、それぞれの通学路でお世話になっている子どもたちが、花鉢とともに感謝の言葉をお伝えしました。3名の指導員の皆様からは、通学班はもちろん、自由登校であっても、あいさつを含め、高学年がしっかり範を示し安全に登校できていること、自分の身を自分で守るという四小の伝統を、これからも引き継いでいってほしいというお話をいただきました。どんな時にも、私たちの安全のために交通指導を行ってくださっていることに、心から感謝し、安全な登下校を続けていきたいと思います。



* 12月の校長講話より

いよいよ冬本番になりました。みなさんは冬が好きですか？寒いけれど、冬にしかできないこともたくさんあります。雪遊びやスキーもその一つですね。みなさんは、「ゴールデンエイジ」という言葉を聞いたことがありますか？日本語では「黄金期」といいます。人間の一生のうち、身体能力や運動の能力がとて発達する時期のことです。だいたい6歳から12歳までの間といわれています。そう、まさしく小学生の期間なのです。体の動かし方や、動作、技術を短い時間で覚えることができる、一生に一度だけの貴重な年代なのです。大人になっても、もちろん、新しいことを身に付けたり、できるようになったりしますが、子どもの頃より、ずっと時間がかかるそうです。このことが知られるようになってから、スポーツの世界で活躍する人たちも、昔に比べるとどんどん年齢が下がっていると思います。小学生の世界チャンピオンも誕生していますね。校長先生も、スキーやスケートは子どもの頃に始めたので、今でもすべることができますが、大人になってから挑戦したスノーボードは、同じように挑戦しても、全然できませんでした。今週から、学年ごとに「オールジャンプ」の取り組みも始まりました。寒い日も多くなりますが、「ゴールデンエイジ」の皆さん、スキーやスケート、雪合戦など、いろいろな運動に挑戦して、体を動かし、能力を高めていってほしいと思います。

さて、今日は冬によく食べられる果物についてお話します。昨日の給食にも出た「温州みかん」です。「みかん」は「オレンジ」とは違い、正真正銘の日本生まれの果物です。誕生は、江戸時代。鹿児島県で誕生したそうです。今日はこのみかんと一緒に、3種類の食べ物をもってきました。1つ目は、北海道産の玉ねぎ、2つ目は宮城県産のパプリカ、そして、岡山県産のぶどうです。この4種類の共通点は？なぜ、この4種類の食べ物？

実は、この4種類の食べ物は、国際宇宙ステーションに宇宙飛行士の方の健康を支える食べ物として、無人宇宙船で運ばれたものなのです。宇宙に、生鮮食材が届けられるなんてびっくりですね。では、どうしてこの4種類の食材だったのでしょうか。その理由は、

- ・調理せずに、そのまま生で食べられる
- ・22度の常温で4週間以上保存が可能
- ・食べた後に残りが少ない
- ・食べるときに、果汁が飛び散ることが少ない



宇宙でも食べられるこの「温州みかん」は、宇宙飛行士の健康を支えるだけあって、私たちの健康にとってもよい働きがあります。みかんに糖分やビタミン、ミネラルが含まれているのは、よく知られたことですが、「β-クリプトキサンチン」という、抗酸化力の強い物質が含まれています。おうちの方でお酒を飲む方もいると思いますが、お酒に含まれるアルコールは、飲みすぎると肝臓に良くありません。でも、1日に2、3個のみかんを食べていると、悪くならないという研究結果が出たそうです。また、みかんの白い袋や筋、皮には「ヘスペリジン」という物質も含まれていて、中性脂肪を分解したり、血管を丈夫にしたりする働きがあることがわかり、注目されています。

校長先生も、昔は「みかん」がそれほど好きではありませんでした。でも、今は、甘くて味のこい、この「温州みかん」が大好きになりました。みかんの食べ比べもしています。皮がむきやすくタネがない、そして何よりこの味わいから、世界でも人気が高まっているそうです。テレビを見ながら食べられるので、「TVフルーツ」などとよばれ、「みかん」は国際共通の言葉になりつつあるそうです。果物も、進化し続けているんですね。

この冬、みなさんもみかんを食べることが多いと思います。ぜひ、このみかんのすごいところを思い出してみてくださいね。